

Title	クラスターにおけるイノベーション創出プロセス - 浜松クラスターにおける光技術産業創出事例 -
Sub Title	
Author	川瀬, 七生(Kawase, Nanami) 奥村, 昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2003
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2003年度経営学 第1848号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002003-1848

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	奥村 研究会	学籍番号	80228181	氏名	川瀬 七生
(論文題名)					
<p>クラスターにおけるイノベーション創出プロセス —浜松クラスターにおける光技術産業創出事例—</p>					
(内容の要旨)					
<p>近年、クラスターがもつイノベーション促進機能が注目されている。そして、その研究の中核を成しているのがM.E.ポーターの「クラスター理論」である。ポーターは、世界中に存在する様々なクラスターの事例分析から、クラスターにおけるイノベーション創出メカニズムを「『需要条件』、『競争環境』、『要素条件』、『関連・支援産業』という4要素のダイナミックな相互作用」と結論づけ、「ダイヤモンド」フレームワークを示した。</p> <p>それでは、「クラスターにおけるダイナミックな相互作用」とは具体的にどのようなものか。なぜクラスターにおいて4要因の相互強化関係が成立するのか。残念ながら現行理論では、クラスターにおけるイノベーション創出プロセスについて詳細な説明はされていない。しかし、①国の競争力を担う役割、②企業間の連携の場、③イノベーションを常に奨励する場、④昔からの地域の強みを発揮する場、として重要性が増しているクラスターを理解するためには、そのイノベーション創出プロセスを明らかにすることは不可欠である。</p> <p>そこで、本論文では連続的にイノベーションを創出している静岡県の「浜松クラスター」に注目し、その発展過程のうちでも特に、近年発展がめざましい光技術産業が創出されたプロセスについて時間軸をさかのぼって調査を実施した。そして調査の結果、浜松クラスターには、1つの産業から関連産業が次々と派生し、多様な技術の蓄積が進むことで新たな産業が創造されるというクラスターの持続・発展の歴史があることが明らかになった。そして、その持続・発展の歴史を産業組織間の相互作用という視点から分析した結果、浜松クラスターにおいて連続的に新規産業創出というイノベーションが生み出される背景には、ポーターの指摘する4つの要素に加えて、「地域内の情報公開性」と「地域組織の有機性」という2つの要素が機能しているという仮説に至った。</p> <p>クラスターとイノベーションの関係については、いまだ理論的に解明されていない点が多い。今後、本論文を、クラスターにおいてイノベーションが創出されるプロセスの検証と、連続的なイノベーションを繰り返すことで長期に継続・発展していくクラスターに必要な要素を明確化する研究につなげていきたい。</p>					